

## 令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(岡部中学校)

### 平均正答率

#### 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中	下回った 55.9	下回った 57.1	下回った 61.4	下回った 52.1	下回った 45.0	下回った 49.6	下回った 56.1	下回った 47.3
埼玉県	59.9	60.3	66.4	53.5	48.8	57.5	61.9	54.6

#### 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中	7-B	7-A	7-B	6-B	6-A	7-C	8-B	9-C
埼玉県	7-A	8-C	9-C	7-C	7-A	8-C	9-C	10-C

#### 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中		0	1		2	0		1
埼玉県	1	0	2	1	2	0		3

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		岡部中	埼玉県	岡部中	埼玉県	岡部中	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	82.8	79.8	73.2	69.3	77.7	66.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	76.5	73.0	74.5	67.6	74.0	68.3
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができる	90.5	84.7	88.5	82.9	92.0	85.3
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	89.9	88.6	89.8	89.8	93.8	92.4
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	96.2	89.6	94.3	88.2	97.6	91.3
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	56.8	46.8	54.2	43.5	50.9	43.8
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	77.7	68.6	62.3	65.9	63.4	71.8
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	17.8	15.6	10.2	11.4	4.3	11.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	80.9	77.0	75.2	68.9	70.2	65.4
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	69.5	56.9	64.4	45.8	63.4	42.4
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	69.4	65.6	68.8	62.5	64.6	57.8
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	83.4	82.5	88.5	84.0	78.2	78.0
	・国語や数学、英語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた(3項目の平均)	22.3	21.2	15.9	16.8	7.2	16.3
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	49.7	27.2	29.9	12.7	24.2	12.0
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	96.9	92.1	96.2	93.3	96.2	93.0
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	98.7	94.9	97.5	95.3	97.5	95.2
	・学級での生活は楽しい	94.9	92.4	95.5	93.6	96.3	92.1

## 【質問紙分析】

- ・「自分にはよいところがあると思う」や、「学校の宿題や試験で良い成績を取ることができると思う」など、自己肯定感に係る項目は高めである。
- ・「勉強をする前に、何を勉強しなければならないか考える」や、「勉強をする前に、既習事項を覚えているか確認する」など、見通しを立てる力に係る項目は低めである。
- ・「グループやペアで話し合う活動」や、「意見や考えを出し合ったりして課題を解決する活動」など、対話的な学びや、課題解決的な学びに係る項目は低めである。
- ・授業でパソコンやタブレットを使う頻度に係る項目は低めである。

## 伸びが見られた学級・教科での取組

### 【学級】

- ・話し合い活動を頻繁に行っている学級ほど、「グループやペアで話し合う活動」や、「意見や考えを出し合ったりして課題を解決する活動」など、対話的な学びや、課題解決的な学びの充実度が高かった。
- ・「先生が自分のよいところを認める」「友達が自分のよいところを認める」項目が高いクラスほど、学級や学校生活の満足度が高く、学力も高い傾向にあった。

### 【国語】

- ・文法や言葉のきまりに関する問題と複数の情報を整理して文章内容を捉える問題の正答率に課題があるため、述語に対しての主語を探すことを徹底するよう助言したり、全ての文章を扱う際に、読みの視点の提示や字数を限定した要約を行ったりしている。
- ・「一文の中から体言をすべて選択する」問題の正答率が低いため、定期的に文法の復習を実施し、体言・用言とは何かを再確認できる機会を普段から増やしていく。

### 【数学】

- ・2学年では、少人数指導を実施し、1名の授業者に対して約16名の生徒を対象に授業を行っているので、より細やかな指導が実現できている。
- ・3学年では、始業前に「3問テスト」を実施し、入試問題や実力テストの過去問題などに取り組むことによって、基礎基本の定着が図られている。

### 【英語】

- ・文法や語順正誤など知識を問う問題において、応用的な内容の問題に対して正答率が低い傾向がある。そのため、授業中の問題演習や、ワークシートによる基礎の徹底に加えて、応用問題にも取り組ませるようにしている。
- ・会話文や文脈から内容や重要なポイントを読み取る形式の問題の正答率が低いため、長文読解や会話文の読解のポイントを再確認したり、文章から読み取る形式の問題に挑戦したりする機会を普段から増やしていく。

## 一人一人をより伸ばすための取組

- ・よりよい学級の在り方を「ウェルビーイング」の視点で具体化する。また、学級経営の工夫について、校内研修その他の場で研究協議し、実践する。
- ・学習指導における適切な目標設定、評価基準の設定、形成的評価の手立てとタイミング、信頼性と妥当性のある総括的な評価の在り方について、理解を深め、実践する。

